

社会福祉法人
北海道社会事業協会
余市病院
2020.11.1～2021.3.31

浜頓別町国民健康保険病院
2022.4.15～2022.6.23



新ひだか町立静内病院
2021.11.10～2022.3.31

きっかけは、「セカンドキャリア
講演会」 応援ナースのシス
テムを知り、面白いと思った

坂本 地方ならではの共通性はありましたか。

植木 地方病院なのでなんでも来る。専門性は持っていない、専門外でもどんな患者さんも見るといって体制の病院がほとんどです。地方の基幹病院がそこしかないので…。

坂本 都会では、断らない医療をどうするかという点が、地方に行けばそれは当然という事ですね。

植木 そうなんです、都会は断りますからね。専門外と言って、断つても行くところがある。応援ナースが行くような地方の基幹病院は、他にないで断らない。それをすべて受け入れているという事に広い知識も必要です、対応できるような力をつけられるんじゃないかと思っています。期間にもよりますが、3カ月ではシステムに慣れたころに契約が終わってしまうので、半年近くいればお役に立てることができると思っています。

坂本 先ほど語られていた「地方ならではの病院から次の段階への進め方」を学んだという事については、具体的にはどんなことですか、退院調整など、札幌との違いがありますか。

植木 退院調整！札幌でもやっていました、が、札幌は行くところがある、すぐに進め

られる。在宅の事業所もたくさんあるしケアマネージャーもたくさんいるから、どんな方向でも進められます。地方は次のステップにすめない施設もないし、自宅に帰るにしても事業所も少ないし、ケアマネージャーも少ない、訪看をやっているとこ
ろも少ないです。

坂本 限られた資源の中で、どのように退院調整を進めるかというところですね。植木 あと、地方あるあるですが、施設と病院を行ったり来たり、毎月同じ患者さんが入院してくるとかだったりします。

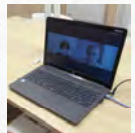
プライベートは…

坂本 病院と寮を行き来する以外に何か楽しいことはありましたか。

植木 ほぼ出ていないですね（大笑い）札幌圏以外は車がないと、交通の便が悪い。車がないとどこへも行けないのでお買い物にも行けない。宅配サービスを利用するしかないです。静内の時は、宅配定期便を取っている職員が自分の分も合わせて注文してくれました。車がないので、家についてテレビを見たり本を読んだりしていました。時間が経つと仲良くしてくれる人もできて、ドライブや食事に連れて行つてくれたり、ちようと、コロナの時期で外で飲むつていう事がなかったので、病院の宴会



3か所の施設で応援を経験した 看護師に聞いてみました!!



植木有紀さん

約30年間に一般急性期病院に勤務の後、2020年・2021年・2022年と、計3か所の施設で、北海道看護協会地域応援ナースとして勤務。その後は、夏期は実習インストラクターとして看護学生の育成にたずさわる一方、冬期は、地域の医療機関で就業(2022.11月～遠別町立国保病院)し、臨床の場で看護実践をしています。

坂本（地域応援ナースコーディネーター）
今回の企画は、今、応援ナースを検討されている方々の「実際のところは？なんだろう？」の疑問に答えるため、応援ナースの生の声、そして、本音の部分をお伝えしたいと考え、企画しました。

まず初めに、植木さんが応援ナースになつたきっかけを教えてください。

植木 看護協会の研修（2019年11月「看護職のためのセカンドキャリア講演会」）に参加したのがきっかけです。その際、離島（利尻）の紹介があり、応援ナースのシステムを知り、面白いなと思いました。前の病院に30数年働いて同じ病院にいたので、違うところで働いてみたい、他の病院のシステムを知りたいと思いました。

坂本 利尻の話聞いた時にどんな印象を受けましたか。

植木 一般でいう派遣ナースと応援ナースの違いが良くわからないですが、短期間の派遣かなという漠然とした印象でした。実際のところ、業務内容の違いはなく、派遣も応援ナースも同じ扱いです。

坂本 派遣ナースを受け入れている施設が多くありますが、職場は受け入れに慣れていましたか、実際行ってみてどうでしたか、戸惑いなどもありましたか。

植木 慣れているところもあったし、は

じめてに近いところもあつたので、どんな風
 な役割になるか行つてみないと分りません
 部屋持ちするところもありました、まったくフ
 リー業務のみのところもありました。場所
 によってはスタッフとして迎え入れてもらひ
 カンファレンスや退院調整に参加したり、
 積極的に受け入れて頂いたところもあつた
 ので、地方ならではの病院から次の段階へ
 の進め方などを学ぶ機会になりました。
 今もこのようにやっていると、こういう器
 具を使っているんだとびっくりすることもあり
 ました。それも、不便な中でも私たちが
 どうやってやるか、工夫していくか、その中
 で学ぶことはあります。札幌が長かつたの
 でかなり恵まれた環境で働いていたと実
 感しました。教育体制についても、かなり
 違いがあると感じました。
 戸惑いは、最初はありましたが、まるつきり
 同じと思つて行つてしまつてギヤップを感じ
 じて、自分は無理かなと思つてしまつた。なの
 でそのような時は札幌近郊から行くのも
 一つの方法かと。私自身も最初は近郊
 を勧めてもらいました。
 坂本でもそういつた現状も理解しながら
 行つてもらうと、ギヤップは感じるかもしれ
 ませんが、ある程度心構えにはなるかと思
 います。



もないですし、個人の家でパーティーしてくれたりでした。

車のある人は派遣同士で出かけたりしていたみたいです。たくさん派遣のいるところにいるとグループが出来たりあるんですよ。私自身は派遣同士ばかりで仲良くしないで「派遣は」とか「正職員は」とかなつてしまふのは嫌なので、そういう環境下で働くのはよくないと思つてます。あまり気負わないでフラットにいけばいいのかなというのがあります。

坂本 仕事、プライベートを含めいろいろな経験をされましたね。植木 これを楽しめるかどうかだと思います。

看護協会以外にも民間の派遣が混在しています。そういうところで働く、民間の方はちやうど辛くて早く辞めてしまつたりとかを見てきました。坂本 それはどういった違いなんでしょうか。

あまり気負わないで フラットにいけばいい

植木 応援ナースも民間の派遣ナースも内容は同じなんです。ただ衝撃の受け方が違うように思うこともあります。その地方には看護職がいなくて、お給料もそれなりにあり、それに見合った仕事はしなればならないと思つています。中には、正職員と派遣の役割の違いで、悩む人もいます。派遣が考えている職場と正職員が考えている派遣に対する気持ちはちよつと乖離があると感じます。それを無理して埋めなくていいんじゃないかと思ひます。無理して埋めようとするところちよつと辛くなるかも。

派遣が多くて、みんな3か月ほどの契約で辞めてしまふ事に対して、教える労力つてすごい大変です。それをずっと繰り返ししている非常に無駄だと思ひました。それで、一施設でマニュアルを作りまして、自分たちが派遣で困つたことをマニュアルにした方が、正職員の人が作るマニュアルよりわかりやすいかなと思つて、たたき台を作つて他の派遣にも見てもらつて、完成させました。職場では

ちゃんと使つてもらつてゐるみたいです。

坂本 それは嬉しいですね。

植木 マニュアルが有つた方が良いと職員の方も思つていますが、忙しくて手が回らなくて「じゃあ作りますよ」つて、使つてくれてよかったです。マニュアルが整備された場所から行く、と衝撃は受けますが、応援ナース用のマニュアルはないのを覚悟で、行つた方が良いでしょう。

坂本 今、応援ナースを考えている人にぜひ伝えたいことはありますか。

植木 一緒に働くということで、前にも言つたように「派遣は」とか「正職員は」とかはあまり考えないで、フラットにいつた方が上手く行くんじゃないかと思ひます。受け入れてる病院にしてみると、私たちがいくらで雇われているか知つているので、それだけ払つてゐるのだからやるべきことはやつてほしつて、派遣に來たんだから教えずに、でもすぐ動けることを派遣先は期待しています。それなりに働きたい来ているという意識を持つていけばいいと思ひます。

あとは、住宅事情がそれぞれ違うので、しつかりコーディネートの方に聞いてから準備したらよいかなと思ひます。生活用品については、現地調達で難しい場合があります。都会では、現地調達もいいかなと思ひますが、それはかなわないこともあるので、なるべく揃えて行つた方が良いでしょう。

都会では、寮も付いて家具も付いてる働き方は、あまりないと思ひます。

病院によつて違ひますが、受入れが慣れているところは大体のもの（家具、家電）は完備しています。

地方だからこそ、こういう働き方ができるので、そこは恵まれていると思ひます。何も持たないで行けるので、最初に情報収集をしておいた方が良いでしょう。あと、冬は寒いです。私は、冬場の応援が多かつたので、どこから来るかにもよりますが本州から来る方は冬の北海道にはびつくりすると思ひます。

自分の生き方に いごごちがいい

坂本 防寒対策は自分で？
植木 北海道に住んでる自分でも毛布や寝袋を買ひました。
坂本 いろいろなお話を伺つてきましたが、応援ナースについて、植木さんの方から最後に一言いただけたらと思ひます。
植木 今回のお話を受ける時に「多様な働き方についてどう思うか」との質問がありましたがいと思ひます。ライフスタイルに合わせたいろいろな働き方はいいんじゃないか、自分が働き始めたところから見ると、ずつと多様化している、で、そういうのは非常に看護師を長く続けるうえでも良いのかなと感じています。制限がたくさんあると長く働き続けていくうえで辛くなつていくので、短いスパンで働きたいと思ふ人はこういう応援ナースのシステムを使つたりしてよいと思ひし、どこか気に入つたところがあれば、応援ナースを経て就職するというのも非常に良いのかなと思ひます。いろいろな働き方があつていいと思ひます。今は、選べる。自分が看護師になつたところは正職員しかありませんでした。あとは外来看護師か病棟看護師かの選択、夜勤するかしないのかの選択だけでした。病棟にいてつてことは、夜勤するしかないという時代だつたから、それか

ら見たら今は常日勤で病棟で働くこともできる時代です。

坂本 長い看護師人生の中で、働き続けていくための多様性は必要かなと……

植木 患者さんを見ることだけが看護師ではなく、どこで何をしても、看護師であればいいと思ひます。治験のコーディネーターだつたり。ご存じのように、夏に私は学生の実習のインストラクターをしてゐるから、そういうのも看護士としてずつと看護にかかわつていられるので、いいです。というか「いごごち」がいいです。「この場所」にいごごちがいいのではなくて、自分の生き方にいごごちがいいと感じています。30数年の同じ場所働いて、その大切さも十分わかつたうえで、そこを辞めた自分もまだ看護にかかわつています。看護は一生です。

バイタリティーと柔軟さあふれる素敵な植木さんにお話を伺えて、感謝です！
応援ナースを考えている皆様に参考にしていただければ嬉しいです。

記事：地域応援ナースコーディネーター

坂本 瑞江

対談日：2023年2月28日